

今宮通信



～Dr's コラム～

新型コロナとインフルエンザ

院長 大塚章人

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、2019年末より始まったSARSコロナウイルス2(SARS-CoV-2)を病原体としたパンデミック(世界的な大流行)です。肺炎などにより致死率が高かったうえに周りの人に感染が広がりやすかったため世界的に大きな問題となりました。全世界で数百万人死亡したと推定されています。ウイルスは変異を繰り返し、2022年から主流となっているオミクロン株では、それまで流行していたデルタ株より伝染性が高くなったものの弱毒化し致死性が低下しました。オミクロン株は変異を繰り返し毎年流行していますが、集団免疫もできてきており、徐々に流行のピークが低くなってきています。



一方、インフルエンザ感染症については、起源は不明ですが、1918年から1920年にかけて流行し全世界で数千万人の死者が出たとされているスペイン風邪が、後世の研究でH1N1型のA型インフルエンザウイルスによるパンデミックであったと判明しています。スペイン風邪もウイルスの変異による弱毒化と集団免疫によりその感染による死亡率は数年で低下しました。インフルエンザウイルスにはA型とB型があり、少しずつ変異して毎年流行しています。

新型コロナとインフルエンザウイルス感染症に対して、巽今宮病院で行っている対策について紹介します。両ウイルス感染症への対策は多くが共通しています。新型コロナウイルス感染症は夏と冬、インフルエンザ感染症は冬にその流行があります。予防のために、流行する前の秋から冬にかけてワクチン接種を行いウイルスに対する免疫力を高めます。流行期には、大勢の人が集まる場所に行く際に、手洗いやマスク着用を徹底し接触感染や飛沫感染を防ぎます。しかし、流行期にはどれだけ気を付けていても感染する可能性があります。少しでも咽頭痛、咳、発熱などの感冒症状の自覚があればウイルス抗原検査を受け、早期に診断を確定させることが、自己への治療のみならず周りの人にうつすのを防ぐのに役立ちます。診断が確定後、症状発現日を0日としてその後5日目までの体内のウイルス量が多い期間は、隔離が必要なため自宅で静養し、必要に応じて感冒薬や抗ウイルス薬をのみます。この



5日間は自己の感染症からの回復と周りの人への感染の広がりを防ぐのに有用な期間となります。

新型コロナとインフルエンザウイルス感染症への対策においては、まずは感染を予防すること、そして、例え感染しても早期に感冒症状に気づき診断と治療を受けること、5日間は療養に専念することが重要です。

～糖尿病セミナー～

昨年11月8日(土)、当院にて“第5回糖尿病セミナー”を開催いたしました。今回のテーマは、糖尿病と認知症～認知症を予防する方法～でした。多くの方にご参加いただきました。第6回糖尿病セミナーは、糖尿病と骨折をテーマとして6月に開催予定です。



(写真：糖尿病セミナーの様子)

～行事予定～

4月4日(土) お花見🌸

当院裏にある桜の木の下にて、患者様・ご家族様に抹茶とお茶菓子をお出しする予定です。

～巽今宮病院 部署紹介～ ●臨床工学科

臨床工学科には現在3名の臨床工学技士が在籍しています。臨床工学技士とは、医師の指示の下、生命維持装置の操作および保守点検などを行う医療機器を専門とする医療スタッフです。当院での業務は、主に透析業務と医療機器管理業務が中となっています。

透析とは、正常に機能しなくなった腎臓の代わりに体内に溜まった老廃物や毒素、余分な水分をろ過する治療です。当院の透析は入院透析のみでベッドは16床あります。ほとんどの患者様は巽病院で外来透析を受けていたベテランの患者様で、なかには様々な合併症を併発されている方がいらっしゃいます。全国の透析患者数は約34万人、大阪府内では約2万3千人（2023年12月時点）といわれており、高齢化に伴い当院のような療養型の透析施設の需要は高まっていくと思われます。

私たちは他の部署と連携し合併症の早期発見と予防策を意識することを心掛け業務に取り組んでいます。



写真：臨床工学科 臨床工学技士

～キャロリング♪～

昨年12月16日(火)、千里ニュータウンバプテスト教会の婦人会の方々にお越しいただき、当院3階から1階を“キャロリング”して廻っていただきました。

フルートと電子ピアノを奏でながらクリスマス聖歌をうたわれました。病院内が少し早めのクリスマスを感じる時間となりました。



～今宮の庭～

巽今宮病院の敷地内には薬木園をテーマに薬効を持った植物がたくさんあります。

花が少なくなるこの時期に、“ツワブキ”が鮮やかな黄色の花を咲かせてくれます。黄色の花と光沢のある濃い緑の葉のコントラストがとても美しいです。

“ツワブキ”の花言葉は『困難に負けない』です。インフルエンザや新型コロナの流行に負けず、この冬を乗り切りましょう！！

●ツワブキ

薬用部位は根茎と葉です。根茎は、生薬名を『橐吾(タクゴ)』といい、健胃、下痢、食中毒に用いられ、葉は抗菌作用があり打撲や湿疹などに用いられるそうです。現在では薬用よりも園芸用、食用として利用されることが多いようです。



アクセス



ホームページ



FaceBook



Instagram



LINE公式